

第2学年 音楽科 学習指導案		日時	平成30年9月6日(木) 第6校時
題材名	2 内容(1) A 表現 アイ(ア) ウ(ア) 聴いて！見て！歌って！日本の「心の歌」を味わおう 【育成する資質・能力・・・課題発見・解決力】	学年・組 人数	第2学年A組 男子19名(内交流学級生徒1名) 女子17名(内交流学級生徒1名) 計36名
指導者	西 奈那子	場所	音楽室

1 題材観

新中学校学習指導要領解説音楽編では、「曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付けるようにする。」「主体的・協働的に表現の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。」ことを第2学年の目標とし、2内容(1)A表現「ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。」「イ(ア)曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりを理解すること。」「ウ(ア)創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けること。」と示されている。

本題材は、夏の日の静寂な尾瀬の風物への追憶を表した叙情的な曲である。言葉のリズムと旋律や強弱との関わりなどを感じ取り、曲の形式や楽譜に記された様々な記号などを捉えて、情景を想像しながら表現を工夫して、日本の歌の美しさを味わうという学習展開に適した題材である。

2 生徒観

題材に係る意識調査の結果から、「日本歌曲(『浜辺の歌』や『赤とんぼ』など)を歌うことが好きである。」(63%)ことがわかった。「歌うことが好きである。」(80%)を下回った理由として、「歌詞の意味が理解しにくいから」「リズムや歌い回しが独特で、とっつきにくいから」という理由が挙げられた。また、「歌唱するとき、歌詞の内容や曲想から、曲にふさわしい表現を工夫して歌うことを意識している。」(56%)ということも明らかとなった。これらの実態から、題材の導入を工夫して生徒の意欲・関心を高め(「課題発見・解決力」の向上)、生徒自身に色々な角度から本題材を味わう視点を発見させ、それらを実際の歌唱表現につなげていくことができるような学習活動を展開していく必要がある。

3 指導観

本題材を通して、豊かな自然や四季の美しさのイメージを膨らませながら、我が国の文化のよさを味わい、日本語の響きを生かして歌唱するとともに、作詞者や作曲者の思いを生かした曲にふさわしい表現の方法を見出していきたい。

「題材の導入を工夫して生徒の意欲・関心を高め、生徒自身に色々な角度から本題材を味わう視点を発見させる」ために、生徒が感じている「夏の思い出」に対するイメージを交流した後、本題材の鑑賞を行う。鑑賞の際には準拠音源だけではなく、合唱のものや伴奏がボサ・ノヴァ調にアレンジされたものを比較して聴取し、それぞれの良さや違いを見つけるとともに、多くの歌手が本題材にアレンジを加えながら愛唱歌としている事実から、長く歌い継がれてきた理由や、多くの人々を魅了する楽曲固有の良さを考えるきっかけとしていく。

「生徒自身が発見したことを実際の歌唱表現につなげていく」ために、歌詞の朗読を通して語感を掴むとともに、意味の理解しにくい言葉や疑問に思う歌詞を集団思考で予想・推論しながら、歌詞の大まかな内容や作詞者・作曲者の意図していることを生徒自身の力で理解・解決できるようにする。その後旋律の動きや強弱に触れながら歌唱し、それらの効果をどのように工夫すれば、作詞者や作曲者の思いを表現する歌唱に近づくことができるのかということを考えさせていく。

これらの学習活動の実践を通して、作詞者・作曲者や自分自身の題材に対する思いや意図を音楽で表現することによって、音楽に対する感性を育てていくとともに、課題とする資質・能力の向上を図る。

4 題材構想 「どのようにすれば、作詞者や作曲者が曲に込めた思いを理解し、表現することができるだろうか。」

＜題材を通して育成する生徒の姿＞

- ・ 作者や自分自身の題材に対する思いや意図を、音楽を通じて表現することによって、音楽に対する感性が豊かになる。
- ・ 日本で歌い継がれてきた歌曲のよさや美しさを味わう視点を広げ、音楽に親しもうとする意欲が高まる。

目標	曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりを理解し、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。			
(全2時間)	学習課題・発問	生徒の学習活動	評価規準	評価方法
第2次	ふりかえる ◎ふりかえり 「2時間の学習をふりかえて、どのようなことが勉強になっただろう？」	・全2時間の学習で何を学んだのか、何をつかんだのか等を整理する。 ・音楽記号の位置や場所について、作詞者や作曲者にどのような意図や思いがあるのかを考える。 ・作詞者、作曲者についてのエピソードも参考にしながら考察する。 ・歌詞の内容を生かして歌唱する。	・『夏の思い出』にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音などの技能を身に付けて歌っている。【技能】 ・『夏の思い出』の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりを理解し、曲にふさわしい音楽表現を工夫している。【工夫】	行動観察 WS② 行動観察 WS②
	深める・表現する ◎探究・表現 「『夏の思い出』を、どのように歌ったら良いのだろう。」 「『夏の思い出』の誕生秘話とは・・・？」			
	考える② ◎情報の収集・整理・分析② 「歌詞に表されている情景を考えよう。」			
「この曲の誕生秘話を調べてみよう。」(次時への課題として、家庭で調査活動を行う)				
第1次(本時)	考える① ◎情報の収集・整理・分析① 「歌詞を朗読してみよう。」 「歌ってみよう。」 「“私”と“楽曲の中の世界”を比べてみよう。」	・歌詞を朗読し、自分自身の夏の思い出と、楽曲に表されている夏の思い出とを比較しながら朗読する。 ・1番を歌唱し、実際に歌ってみて感じたことを言語表現する。 ・夏休みの体験や、これまでの夏の過ごし方をワークシートに記入し、自由に発言する。 ・演奏スタイルの異なる『夏の思い出』を3曲聴き、良さや違いを発見する。	・『夏の思い出』の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心を持ち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。【関・意・態】	行動観察 WS①
	引き出す・見通す ◎題材の概要・課題設定 「あなたにとっての“夏の思い出”とは？」 「なぜ、こんなにもたくさんのアーティストで『夏の思い出』が多くの歌手に歌われているのだろう？」			

本校で育成する資質・能力
【課題発見・解決力】
 「なぜこうなるのだろうか?」「もっとこうしたい」という考え方を物事に取り組む意欲が低い。
 楽曲の魅力に気づく視点を養う学習を通して、日本歌曲の美しさを味わわせ、歌唱への思いや意図を持たせたい。

＜生徒の課題＞

- ・ 日本の歌のよさや美しさを味わう（我が国の文化のよさを味わう）こと。
- ・ 曲想や歌詞の内容から思いや意図をもって歌唱表現を工夫し、聴き手に伝わる表現力を身につけること。

5 本時の展開

(1) 本時の目標 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心を持ち、学習に主体的に取り組む。

(2) 学習の展開

<p>学習内容 (○) 学習活動 (・) 【学習形態】</p>	<p>指導上の留意事項 (◇) (◆…「努力を要する」状況と 判断した生徒への手立て)</p>	<p>評価規準【観点】 (評価方法)</p>
<p><導入></p> <p>1 ○自分にとっての「夏の思い出」をワークシートに記入させる。 (5分)【個→全体】 ・夏休みの体験や夏の過ごし方を、自由に発言する。</p> <p>2 ○学習の流れを確認させる。 (2分)【全体】 ・「これからの2時間の学習で、色々なことを発見しよう。」</p>	<p>◇生徒自身の夏に対するイメージと、作詞者・作曲者のそれとを比較する材料となるようにする。</p>	
<p>学習のめあて “私”と“音楽”を『夏の思い出』でつなげよう。</p>		
<p><展開></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>3 ○演奏スタイルの異なる『夏の思い出』を3曲聴き、良さや違いを発見させる。 (20分)【個→班→全体】 ・順にCDを聴き、発見した内容をワークシートに記述する。</p> </div> <p>4 ○歌詞の朗読をさせる。 (3分)【全体】 ・1番と2番の歌詞の音読をし、語感を掴む。 ・言葉の発音に気をつけながら朗読する。</p> <p>5 ○1番を歌唱させる。 (10分)【全体】 ・1番の音取りをし、全体の曲想を掴む。</p>	<p>◇3曲とも歌詞は同じであることを押さえる。 ◆3曲の比較聴取が難しい場合は、他者が発言した内容をワークシートにメモしていくよう助言する。</p> <p>◇自分自身の夏の思い出と、楽曲に表されているそれとを比較しながら朗読するよう助言する。</p> <p>◇どのようなことを考えながら歌ったか、何を感じながら歌ったか等を質問し、音取りに留まることがないようにする。 ◆主旋律を右手で弾き、正しい音程を掴ませるようにする。</p>	<p>『夏の思い出』の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心を持ち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 【関・意・態】 (ワークシート、行動観察)</p>
<p><まとめ></p> <p>6 ○本時のまとめを記入させる。 (5分)【個→全体】 ・色々な『夏の思い出』を聴いて感じたことや、実際に歌ってみて感じたこと等を自分の言葉で記入させる。</p> <p>7 ○振り返りを記入させる。 (5分)【個】 ・仲間の意見を聴いて共感したことや考えたこと、次時に学習したいことを中心に、本時の振り返りを記入する。</p>	<p>◇自分の意見と比較しながら他者の意見を聴かせることで、さらに考えを深められるようにする。</p>	

「引き出す」発問①
あなたにとって“夏の思い出”とは？

大浜の海で泳いだこと。

花火大会に行ってきたきれいな花火を見たこと。

早起きして、ラジオ体操に行ったこと。

旅行に行って美しい景色を見たこと。

「引き出す」発問②
楽曲の中に描かれている“夏の思い出”とはどのようなものだろう？

- どこかの自然について歌われているのではないかな？
- 昔あった懐かしい出来事を思い出している感じ。
- 自分たちの思い出と比べて、時代が古い感じがする。

日本の歌の良さ、我が国の文化や自然の美しさに気づかせる視点①

「考える」発問
なぜ、『夏の思い出』は歌い継がれているのだろう？

- 日本にしかない四季折々の風景を大事にしていかなければならないと、多くの人が願っているから。
- どんなアレンジを加えても素晴らしい曲だから。
- 作詞者や作曲者の思いに反していないのだろうか…

日本の歌の良さ、我が国の文化や自然の美しさに気づかせる視点②

「深める」発問
『夏の思い出』を、どのように歌ったら良いのだろう？

作詞者の気持ちを込めて歌ったら良い歌になると思う。

懐かしい思い出を思い出するような感じで歌ったら良いと思う。

具体的に説明してみよう！

どんなアレンジがされていても、歌詞の内容やその他の情報から、「自分なりに思いを持って、作詞者や作曲者の意図を表現しようとする」ことが大事なんだな。

全体的に優しく歌ったら良いと思う。
↑ なぜ？ ↑
「p」や「pp」の記号が多く使われているから。

フェルマータがついているところは音をしっかり伸ばす。
↑ なぜ？ ↑
作曲者が気持ちを込めたい箇所にはフェルマータがついていると、1年生のときに学習したよ。

伴奏の形の変化にも注目して歌う。
↑ どういうこと？ ↑
1段目は眺めていて、2段目は水芭蕉の花に歩いて近づく感じがする。

「咲いている」「におっている」だけ、なぜ「pp」？
↑ どうする？ ↑
気持ちの動きを表している？子音を意識してそっと歌ってみる？

作詞者や作曲者が曲に込めた思いを理解させ、歌唱表現の創意工夫につなげる視点